

日本ブラジル経済合同委員会の閉会に当たりまして、一言挨拶を申し上げます。まずは、今回、参加されました皆様方におかれましては、日本ブラジルの二国間経済関係に関する貴重なご意見を頂きまして、本当にありがとうございました。

2014年8月、安倍総理大臣がブラジルを訪問しました。当時、私は外務省の中南米局長として、その訪問の準備を行い、総理のブラジル訪問に同行しました。その際、日ブラジル両国首脳は「戦略的グローバルパートナーシップ」の構築を打ち出しました。それから3年、日本とブラジルの関係が幅広い分野で活発な交流が見られることを喜ばしく思います。

ただ、両国の経済関係は順風満帆とばかりは言えない面もあります。今回会合でも議論されたようにブラジルにおいて日本企業が関わる幾つかのプロジェクトに大きな問題が発生しており、まさに両国関係者が知恵を出し合うべき事態も起きています。

一方でブラジルの経済は2015年、2016年とマイナス成長が続き、未だに厳しい状況が続いていますが、現在は復活の兆しが出てきたと思います。この困難をきっかけに、ブラジルでは、新たな発展に向けて政治改革、労働改革、年金改革など構造変革の取り組みが始まったのは、ブラジルの潜在力を一層引き出す動きと考えています。日本企業はこれらのブラジルの取り組みを評価し、短期的ではなく中長期的な視野でブラジルと共に発展しようという動きがあります。

今回の委員会においては、こうした状況を踏まえつつ、貿易、ビジネス環境整備、産業戦略、インフラ整備、資源エネルギーなど幅広い分野で活発で前向きな意見交換がなされ、非常に心強く感じました。これらの動きが継続すれば、両国間の経済関係は更に深く力強いものになると信じています。

最後に、今回、本会議の開催に関して尽力頂いた方に感謝を申し上げます。特にパラナ州工業連盟の皆様のおもてなしは素晴らしいものでした。クリチバは「世界一革新的な都市」と呼ばれておりますが、今回のクリチバ訪問そしてこの委員会において、その一部を垣間見た気がします。今回の関係者の皆様のご健勝、また、日本とブラジルの二国間関係の更なる発展を願って、挨拶とさせて頂きたいと思っております。

山田 彰